

送 辞

2 年 平川 蒼大

あしたゆうべに仰ぎみる
みふねの山の気高さよ

武雄高校の校歌にも、うたわれている御船山。

その母なる山から吹く風に春の訪れを感じる今日の佳き日に卒業式を迎えられた卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

先輩方と共に過ごした時間に思いをはせますと、過ぎ去った日々の景色が次々と浮かんできます。

武陵祭での誰もが熱気に包まれた迫力のある演舞。部活終わりの部室で他愛もない話を時間も気にせず喋ったこと。受験勉強に集中して取り組まれているときのピンと伸びた背中など、挙げればきりがありませんが、どのお姿も私たちのなかで色濃く残っています。

三年前の春、先輩方は武雄高校に入学されました。その時に先輩方が見られていた景色はどのようなものだったでしょうか。まだ、コロナ禍で不安もあったと思いますが、新しく始まる高校生活に夢や思いをもって武雄高校の門をくぐられたことでしょう。

私たち、在校生は、先輩方と苦楽を共にしてきました。私が所属しているサッカー部は、昨年度新チームになってから、勝てない時期が続いていました。

そのような中でも、先輩方が中心となってチームを引っ張り続けてくださいました。勝利という目標に向かって日々練習に打ち込み、時には優しく、またある時は厳しく私たちに教えてくださいました。

先輩、後輩という関係を超えて、同じチームの一員として接して下さるときもありました。負けた時には共に涙し、勝ったときには共に喜び、計ることのできないほどの長い時間を過ごさせてもらいました。それは、サッカー部だけではなかったでしょう。県大会や九州大会、そして全国大会へと武雄高校の名を背負って、共に戦ってきた先輩方は、私たちにとって憧れであり、ずっと追いつけた目標でした。

さらなる高みを目指して練習に打ち込み続け、喜びで胸を熱くした時もあれば、悔

し涙を流したこともあったでしょう。それぞれの結果は違うとは思いますが、先輩方と一緒に部活動をやれたこと、先輩方の最後まであきらめずに闘う姿を見させてもらったことは、私たち在校生にとってこれからの高校生活に生かされるものだと思います。

また、今年度武雄市文化会館の改修工事に伴い、初めてのケーブルワンスポーツパークでの開催となった武陵祭。スローガンは、”築こう我らの武雄伝“。

三年生の武雄伝を武陵祭本番だけでなく、準備期間にも見せていただきました。私は、前期生徒会役員として多くの三年生とお話する機会をいただき、その姿を間近で見ることができました。放課後の遅い時間まで、各団の応援リーダーや衣装係、パネル係の方々は武陵祭を成功させるために、私たちから見えないところで準備をされていました。先輩方の武陵祭に懸ける思いの強さや、先頭に立って私たち後輩を引っ張っていく姿はとても輝いていました。

私たちの胸に刻み込まれた皆様の武雄伝として、これからも後輩たちに引き継いでいきます。武陵祭も終わりに近づいた頃、名残を惜しみながらも全員で肩を組んで歌った武雄高校の校歌。きっと私は、全校生徒が一つとなったあの光景を忘れることはないでしょう。三年生の皆さまにとっても高校三年間で最高の景色を見た人が多かったのではないのでしょうか。

秋も深まり冬が訪れるころ、三年生の背中から緊張感や受験勉強の厳しさを感じるようになりました。単語帳を常に持ち歩かれ、図書館でも夜遅い時間まで勉強をされている姿には、私たちも身の引き締まる思いであるとともに、先輩方のその姿をずっと応援していました。先輩方の勉学に対する探究し続ける姿勢を私たちも引き継いでいきます。

今、AI技術の発達やグローバル化など、私たちを取り巻く環境はめまぐるしく変化し続けています。先輩方はこれから新しい世界へ進み、新しい人と出会い、新しいことに挑戦していかれると思います。

これからの人生、満足のいくことばかりではないかもしれませんが。その時は、武雄高校で過ごした色濃くも、鮮やかな日々を思い出してください。

多くの友達や後輩、そして先生方と過ごしたかけがえのない時間。そして何よりも懸命に取り組んだ勉強や部活動で得た力、これらは青春の一ページとして、いつまでも色あせることのない思い出という景色で見られるはずです。そして、これから皆さ

まが歩まれるまだ見ぬすばらしい未来の景色をその手で作り上げてください。

讃えよ母校 武雄 武雄

武雄高校校歌の最後のことばを送り、名残はいつまでも尽きませんが、先輩方のご健康とますますのご活躍を心からお祈りし、送る言葉とさせていただきます。

令和7年2月28日

在校生代表 平川 蒼大